

発達障害の子 遊び場どこ

子どもとスポーツ 第10部

壁を越えて

見えない壁を越えて

「こっちにおいでよ」。

仲間が声をかけても、5歳のリョウイチ君の動きは止まらない。野球遊びの試合前、みんなが本塁付近に並んであいさつしたが、1人だけ列を離れて駆け回っていた。しばらくすると急に座り込み、整列した仲間に向かって大声で声援を送り始めた。

千葉県船橋市内で、NPO法人スマイルクラブが開いた「運動が苦手な子の教室」。肢体に障害のある小中学生らも参加する中で、体に不自由のないリョウイチ君の動きはひととき目立っていた。

「発達障害」。3歳の頃、医師に診断された。集中力が続かず、じっとしているのが苦手。衝動的に行動してしまいがちなのが特徴といわれる。

リョウイチ君の父は、同じ年頃の仲間とサッカーを楽しんでもらいたかった。地元でサッカー教室はあったが、「普通のお子さんたちが通うチームでは、あの子は浮いてしまう。ほかの人にも迷惑がかかる。そう思うと、親としては気が引けました」。同じ症状の子どもたち専門のサッカー教室を見つけたが、神奈川県から2時間以上もかかるため、あきらめた。今は、毎週末、スマイルクラブに通

バレエ 10日
全日本選手権

東福岡2回戦へ 創造学園も進出

東京体育館でファイナルラウンドが開幕して1回戦があった。男子は高校勢が活躍し、全国高校総体優勝の東福岡高が中京大をフルセットの末に破り、創造学園高(長野)も愛媛大をス

「普通の子のチームでは浮いてしまう…」悩む親

うのがリョウイチ君の楽しみだ。東京都内の小学校のサッカークラブに通うタカシ君は小学4年生。抜群のスピードで敵陣に切り込むストライカーだ。でも、発達障害の影響で感情をコントロールすることが苦手だ。

「おい！ いま、足を引っかけたぞ」。試合では、よく相手選手とトラブルになり、殴りかかることも。「良くないと分かっているけど、すぐにキレちゃう……。後から、すごい嫌な気持ちになるんだ」。

ベンチに下がると、コーチでもある父が駆け寄って必ず声をかける。常にタカシ君のそばを離れず、見守ってきた。「こういう子だ



運動が苦手な子の教室で野球遊びをする子どもたち

からこそ、ルールのあるスポーツをやらせたかった。社会の規則を学ばせたいのです」。

少ない受け皿

知能に遅れないが、健常児とも少し違う。「グリーンゾーン」と呼ばれるはざまにいます発達障害の子どもらに、スポーツを楽しめる環境は少ない。障害者手帳がなければ、障害者の大会には出場できない。一方で、指導が難しいため、受け入れてくれない一般のスポーツクラブも多い。スマイルクラブ理事長の大浜あつ子さんは、「誰もが一緒に遊び、『こういう仲間もいる』と認め合うことが社会には必要だが、現実には敵

しいです」。

発達障害が一般的に広く認知されるようになったのは、ここ数年だといわれている。「昔前は、『しつこくが出来ていない』『親の育て方が悪い』などと、誤解されることが多かった」。

2012年12月に発表された文部科学省の調査で、通常学級に通う全国の小学生の6・5%に発達障害の可能性があることが分かった。日本障がい者スポーツ協会のスポーツ推進部長・水原由明さんは、「教室の1クラスに数人はいる、という数字。ただ、認知されたのは最近で、彼らがどこでスポーツをやっているのか、という実態は、まだ

の柏を破った。男女ともブレミアリーグ(1部)勢は11日の2回戦から登場する。

▽男子1回戦 つくばユニテッド3-0仙台大、甲南大3-2東亜大、中大3-0東海大四高(北海道)、創造学園高(長野)3-0愛媛大、東福岡高3-2中京大、日体大3-0龍谷大、大分三好3-0近大、東海大3-1大同特殊鋼

▽女子1回戦 中京大3-1柏、鹿屋体大3-1CLUB E H I M E、大野石油広島3-0東

自閉症などの広汎(こうはん)性発達障害、読み書きなどに問題がある学習障害、落ち着きがない注意欠

陥多動性障害などがある。個性との区別がつきにくく、本人や周囲が障害に気づいていないこともある。

共存へ徐々に

11年に成立したスポーツ基本法には、障害者の積極的なスポーツ参加と促進が盛り込まれた。笹川スポーツ財団の昨年度の調査によると、日本スイミング協会加盟クラブの約2割が、障害者向けのプログラムを提供している。障害児と健常児が共存し、スポーツを楽しむ環境は全国的に少しずつ増えてきたという。

しかし、グリーンゾーンにいます子どもを対象にした環境の整備は遅れている。発達障害児を専門にスポーツの楽しさを教える支援団体、スポーツひろばは都内を中心に教室を開いている。未就学児や小中学生が対象で、1クラス10人前後。体育の授業になじめなかったり、幼い頃にスポーツをする場がなかったりした子どもたちも多く、大半が運動は苦手だ。手足の動かし方など基本動作から教えている。

運営責任者の西園一也さんはいう。「縄跳び一回、前回り一回。小さな成功の積み重ねが、彼らを前向きにさせます。五輪選手になる可能性だってある。その才能を伸ばせる場所を、社会が作っていく必要があります」。

(村上尚史)

みんなと同じようにスポーツがしたい。「子どもとスポーツ」第10部では、特殊な環境に置かれた子どもたちとスポーツとの関わりを報告します。プライバシーに配慮して一部を仮名にしています。

オーターボーイズ 2月選考会

日本水泳連盟は10日、男女のペアで行うシンクロクライズド・スイミングのミックステデュエットの日本代表選考会を、来年2月15日に東京都北区の国立スポーツ科学センターで開くと発表した。男女1人ずつを選び、正式種目として実施される来夏の世界選手権(ロシア)に派遣する。

これまでシンクロの日本代表が存在しなかった男子は、日本水連に競技者登録をした15歳以

準決勝 2010年 興南 × 報徳学園 28

流れは完全に相手にある。失点イコール逆転だ。七回1死三塁。報徳学園の1年生投手、田村はそんな場面でマウンドを任せられた。「緊張ですか? あったのかも。しれないけれど、そんなものは超越していました。あの状況は、すごすぎました」。

甲子園の準決勝のマウンドに立つ自分。点を取られたら3年生が負ける。入学前、テレビで見っていた春の選抜で優勝した興南の4番打者が目の前にいる。いろんな思

した。浅田はるなぞ「速い」だから、中学で小さなことに詰めた。よ。田。